

韓 国 語

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

今年の受験者総数は143名、平均点は139.05点であった。昨年度の受験者総数は161名、平均点は144.82点で、平均点は下がって英語の平均点に近づきはしたが、大学入試センターが求める「大学に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定する」ための問題に近づいたとは言い難い。むしろ、一部は、より乖離かいりしたものとなってしまったように思える。今までの評価委員会の報告にもあるように帰国生や韓国語母語話者及び民族学校出身者が高得点を取り平均点を上げているのは周知の事実で、その平均点を下げるために問題の難易度を上げることは、受験者の実力を正しく判定するものではない。ただただ平均点を下げるためだけに難易度を上げたため、純粋な、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」にとっては非常に難解な問題もあり、点数が取れなくなっただけである。そのような「純粋な学習者」にとっては、むしろ「大学に入学を志願する者の高等学校段階における基礎的な学習の達成の程度を判定」できない問題に近づいたと言えるだろう。

例年どおり本委員会では、平均点を基にした評価は行わず、高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒が受験することを想定して各問題の評価を行う。また、その際の難易度の基準として韓国語能力試験（TOPIK）のⅡ（3～4級）及び「ハングル」能力検定試験の3級～準2級を想定していることをここに明記する。

2 試験問題の内容・範囲等

本項目では、前文の「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」の学習到達度を測ることのできる問題であるかどうかを判断した。また、紙面の制限上、第1問と第2問については、良問とは言えないものを中心に取り上げることとする。

第1問

A 発音に関する問題

音変化は学習項目の範囲内ではあるが、問1の「곧이듣다」は学習範囲内の語彙とはいえない。発音問題を出題するときもできるだけ学習範囲内の語彙を選択することが望ましい。

B ハングルの表記を問う問題

昨年度のあとがきに記したが、なぜこの形式の出題を続けるのか、甚だ疑問である。問1の「살머시」問3の「닿다」「봣다」等、学習範囲外の語彙もあり、良問とは決して言えない。一刻も早く、韓国語母語話者でさえ間違える、この形式での出題を控え、韓国語母語話者が間違えやすいが、学習範囲内の語彙を使って、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」の真の力を測ることができる問題を工夫して作問していただきたい。

C 漢字の音に関する問題

漢字を不得意とする韓国語母語話者にとっては、難易度が高いが、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」にとっては解きやすい問題と言える。今回は難易度が低く、ここはもう少し難易度を上げてよかったのではないかと思う。

第2問

A、B 用言の活用知識を問う問題

韓国語母語話者が正解率の低い問題。学習範囲内の語彙であれば、良問を作ることは可能であろう。問1の「분다」は学習範囲外の語彙で良問とは言えない。

C 適切な助詞、語尾、語彙を選択する問題

問1の「가다」は学習範囲外の語彙で良問とは言えない。

D 類似した意味を問う問題

問4の「고사하다」は学習範囲外の語彙で良問とは言えない。

E 日本語から韓国語への翻訳。語彙力、文法力、表現力を問う問題。

直訳では不自然な韓国語となり、日本語の国語力も問われる問題で、学習範囲内の語彙で作問すれば、良問であると言える。問4のみ、「꿈꾸니를 빼다」が学習範囲外の語彙で良問とは言えない。

F 適切な語彙を選択する問題

学習範囲内の語彙で作問されていた。

第3問 会話文を読んで、空欄に入れる適切な表現を選んだり、会話文の内容を把握したりする問題

A 短い会話文を読んで、空欄に入れる適切な表現を選び、会話文を完成させる問題

短い会話文の場合、会話が不自然なものになりやすく、シチュエーションに不必要な誤解を生じやすい。問3は「장만했어?」と言っているので正答を導けるが、なぜ時計を持っているのにわざわざ時間を尋ねるのか、「가만」と言っているので自問自答している発話なのか、と解答する上で不必要で余計な疑問を解決しなければならず、良問とは言えない。

B 比較的長い会話文を読んで、会話全体の内容などを問う問題

少し長めの会話文では、よく読み込まなければならず、学習者の思考力も問えるので、良問と言える。ただし、問1は良問であったのに、名前が似通っていて間違いやすく、受験者に不必要な誤解を生じさせ得るので、作問時には、そのことにも留意していただきたかった。

C 比較的長い会話文を読んで、会話全体の内容などを問う問題

環境問題の中で、特に「ゴミの分別収集」にスポットをあてた長めの会話文である。我々の日常生活においても、身の回りのゴミの分別については戸惑うことが多い。文中では、「燃えないごみ」の中のプラスチックを、どのようにして「容器プラスチック」と「それ以外のプラスチック」に分けるかについて会話がなされている。文中の語彙、表現とも難易度は適当であるが、ゴミの対象となる「プラスチック」のモノに関する生活名詞（弁当の容器、包装用のラップ、カップラーメンの容器、歯ブラシ、ビニールの紐など）が羅列的に述べられており、この単語の多さが受験者を混乱させる。作問者は、敢えて混乱させることによって会話文の難易度を上げているようで、会話全体に不自然さを感じる。一人の台詞を短くする、もしくは状況を分かりやすくするためゴミの分別収集の掲示板を会話文とは別に提示するなど、より実際の会話に近いものにするのが良いのではないだろうか。センター入試として扱う内容としては、良いと考えるので、悪問とならないよう、問題形式への工夫を望みたい。

第4問

日韓の学校間交流を通じて偶然韓国語に出会った筆者（ㄱ）が、本格的に語学を学習するに至る経緯を描いたエッセイである。筆者が中学2年のとき、釜山の中学校と交流がはじまり、相手校の生徒が筆者の学校を訪問することになった。韓国については、まったく関心がなかった筆者であるが、突然担任の先生から韓国語で挨拶するように言われ、しかたなく韓国語のスピーチにチャレンジする。結果は、韓国人が聞き取ることができず、本人にとって決して満足

いく内容ではなかったが、このことがきっかけで韓国語を本格的に学習するようになったというストーリーである。かなりの長文ではあるが、テーマ、使用語彙、文法、表現とも適当で、韓国語を学習した高校生にとって親しみやすい文章になっている。各設問の内容も、受験者の混乱を招くようなことはなく、全体的に良問である。

第5問

質の良い睡眠と適当な睡眠時間が、人々の活発な活動には必要であり、そのためには規則的な生活をおくらなければならないという主旨を、いくつかのデータを使いながら説明する、論説文である。睡眠という高校生にとって身近なテーマを扱っているため、中級程度の水準の生徒であれば、読みこなすことは可能であろう。使用されている語彙は、第4問の長文に比べ漢字語の割合が多く、漢字語に慣れていない生徒には難しく感じるかもしれないが、これは論説文の特徴であり、漢字語の学習を促す意味を含め、センター試験の長文内容としては適当であると言えよう。さて、問1では、円グラフを使った設問がなされている。グラフのタイトルと、内容を問う問題だが、このスタイルの設問は長文読解問題では初めてである。統計を使った文章を読み解く力は、これからの社会では特に必要とされるスキルであるため、今回、設問にグラフを使ったことは評価できる。しかし、文中の数値を、ただグラフに置き換えるという内容は、少々単純すぎるのではないだろうか。今後、外国語学習の教材の中にグラフや統計が使われる頻度は、より増えることが予想される。設問の仕方も含め、多様な出題形式の検討が望まれる。

3 あ と が き

以上、各問について評価を試みた。全体的には、本委員会からの指摘を真摯に組み入れ、毎年、改善が図られ、水準の高い問題となっているように思う。ただ、そのような中でも、あえて指摘する点があるので、以下に記す。

まず第一に、前半の第1問B、及び、第2問のC、D、Eの設問の中には、昨年度の本委員会での指摘が反映された設問とは言い難く、むしろ不必要に難易度が上がった設問が散見されたと言わざるをえない。つまり、受験者の正しい実力を測れないばかりか、不必要に難易度が上がることによって、受験者のやる気を失わせてしまうような出題であったと言える。

繰り返しになるが、平均点を下げするために、韓国語母語話者が間違えるであろう「国文法」的な問題を出すのではなく、第1問のCの漢字の音に関する問題や第2問のEの日本語から韓国語の翻訳の問題のように、日本語と韓国語の対照言語学を基にした出題を増やしてはどうだろうか。日本語を直訳しては非文となってしまう、日本語の表現もしっかり把握していなければならず、受験者の思考力を問う良問になりうると思われる。以前出題されたことがあるが、韓国語から日本語の翻訳の問題も、同じような趣旨で良問になり得ると思うので、検討していただければと思う。

第二に、少し長めの会話文の問題である第二問のBとCは、両方とも同じような形式の設問なので、一つはイラストや表、グラフなどを使った、違う形式の出題が望ましいのではないだろうか。

第三に、長文読解の問題数と分量についてである。作問者もすでに気がついていると思うが、長文の長さが、長すぎるのではないだろうか。第4問のように、高校生の生活を表したエッセイであれば、ある程度長くても良いが、論説文や統計を扱った文章は、今回ほど長い必要はない。むしろ問題数を増やし、広告文や案内文、手紙文やSNSでの文章など、より高校生の生活に即した多様な文章を提示するのが、望ましいのではないだろうか。第二に提案した内容と同様、こちらでも違う形式での出題が望ましいと思われ、今後の研究が待たれる。

参考までに、本委員の周囲で受験した生徒の点数は、昨年に比べ平均で15～20点程下がって

る。韓国語能力検定3級程度の受験者であることはほぼ変わらないので、総体的に今年度の問題は、「純粋な学習者」（韓国語母語話者、民族学校出身者、帰国生を除く）にとっては難しい問題であったようだ。現在の作問の方向性を変える必要はないが、前半部分の問題の語彙の難易度を下げることと、長文読解の分量を若干短くし、その分多様な問題形式で出題することで、「純粋な学習者」にとっても解答可能な問題に修正できるのではないだろうか。

以上、本委員会は、センター試験「韓国語」が「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」の実力を測り得る良問を作成していただきたく、様々な提案を行った。残念ながら現時点で、試験問題評価委員会（全体会）において「平均点だけで評価するな」という評価ポイントがあるにもかかわらず「平均点を下げるためだけの」問題が散見することは否めない事実であり、そのことが「純粋な学習者」の受験を妨げ、ひいては受験者層の減少につながるのではないかと懸念している。少しでも、「高等学校で4～5単位を3年間学習した生徒」の実力が正しく判定でき、そのことによって自信を得て、受験者数が増えるような試験問題になることを切に願っている。